

コラム 43 ー 中村震太郎大尉事件

この事件は、陸軍参謀本部の中村大尉が井杉延太郎予備曹長ら他 3 名を連れて、地図作成のため興安嶺方面を偵察中、中国軍の関玉衝の指揮する部隊に捕まり、殺害され、死体は、証拠隠滅のため焼かれるという残虐なものです。中国側は、日本側の抗議に対して、この事件に関与していないと否定するが、関玉衝の妾の日本人夫人が、チチハルの日本領事に真相を漏らすことにより、事実関係が明らかになります。

この事件について、当時の朝日新聞は「未曾有の暴虐極まる惨殺事件が、満洲のシナ官憲によってなされたのは、シナ側の日本に対する傲慢の昂じた結果であり、日本人を侮辱しきった結果である。いまにしてシナの暴虐をただすところなければ、今後さらに憂うべき恐るべき事態の続出を免れないであろう。シナ側に一点も容赦すべきところはない」と報じました。

日本側の事態の重大化を察知した中国は、やっと事件後 3 ヶ月後に全面的に殺害の事実を認めました。